



# ともに Tomoni

外国人の友に、外国人と共に  
東日本大震災の被災者の友に、被災地と共に

CTIC ニュース No.73 / 2012.04



東日本大震災から1年  
震災直後、福島から東京に一時避難していたフィリピン人が再び集った  
2012.3.10 フランシスカン・チャペルセンター (東京・六本木)

## 外国人相談

### Consultation

### Counseling for Migrants



カトリック東京教区が運営している移住者、難民のためのサポートセンターです。日本での生活に関する様々な相談を受け付けています。相談は、無料で、秘密は厳守いたします。面談相談希望の方は、事前に電話予約をお願いいたします。

相談日時：月～金 10:00～17:00

対応言語：日本語、英語、タガログ語  
ポルトガル語、スペイン語、イタリア語

Date and Time:

Monday to Friday 10:00 ~ 17:00

Available Languages:

Japanese, English, Tagalog

Portuguese, Spanish and Italian

Tel (03) 5759-1061

## 賃金未払いとほうとう

私がCTIC所長に任命された1994年秋、入管からCTICに一本の電話がありました。入管に収容されているペルー人から「帰国費用がない。未払いの賃金を貰って欲しい」というものでした。何度社長に電話しても、なしのつぶて。仕方なしに数時間かけて甲府まで行き交渉しましたが、結局払ってもらえず、帰路につきましたが、途中、失意のうちにホウトウを食べたのが私の最初の仕事でした。

その日から10数年の歳月が流れ、その間どれだけ移住者の力になれたか心許ないばかりですが、大切なことは、何かをしてあげて、上手くいったということよりも、上手くゆかなくても彼らの傍らに居させていただいたということにあるように思います。教会にとっても、私にとっても特に困難な状況にある移住者の存在は、計り知れないほど大きな恵みだったように思います。共に生きること、分かち合うこと、連帯すること、自分たちの殻を破ることなどを教えてくれたからです。13年もの間、CTICに関わらせていただけたことを心から感謝しております。ありがとうございました。

大原 猛

外国人被災者とともに

## 東日本大震災 3・11 祈念集会

昨年、東日本大震災「避難所」として、福島在住のフィリピン人とそのご家族延 450 人を受け入れたフランシスカン・チャペルセンターで「祈念集会 Moving forward together」を開催しました。福島から 100 名のフィリピン人をはじめ、東京教区のフィリピンコミュニティのメンバー、日本人ボランティア、大使館関係者など 250 人が集いました。

最初にこの一年の分かち合いが行われ、タガログ語、英語、日本語を交えてのミサでは、厳粛な雰囲気の中で、分かち合いの時間に作成されたメッセージが張り付けられた福島県の地図が奉獻され、未来への希望を確かめました。交流会での福島からの来場者全員による「I love you & I need you ふくしま」の大合唱で、盛り上がりは最高潮に達しました。CTIC 副所長有川憲治から、「福島で仙台教区フィリピンコミュニティの交流会を企画中である」との発表があると、会場には驚きの声が上がりました。

福島から参加したキャサリンさんは「全く交流のなかった東北と東京のフィリピン人が、震災後の出来事を通して交流し、励まし合うことができるようになったことは、お恵みです」と語っていました。「福島で会いましょう」言葉を掛け合いながら、バスは福島へ向かって行きました。

(奥山マリアルイサ)

福島からの参加者



困難の中にある外国人とともに

## 入管面会訪問

東京入国管理局（東京・港区）東日本入国管理センター（茨城県牛久市）と、の2ヶ所を訪問し、面会と差入れ支援を行なっていますが、この7月には「出入国管理改正法」が施行されるなど、入管を取り巻く現状は刻々と変化し、CTIC が今まで行なってきた収容所訪問のあり方にも見直し・再検討の必要性が見えてきました。

その検討の結果の1つとして、訪問時の収容者との面会は、仮放免を中心とした聞き取りを重点的に行い、原則、差入れのみの支援は行なわないという方針を定めました。限られた時間内で、どういう方と面会し、その目的をどこに絞るか、また、どのような方と継続的に関わりを持つ必要があるかなどを、この方針にそって、さらに検討していく必要があります。前述の法律の理解は勿論、様々な世界の動きや、時のしるしを読み取りながら、どのように支援する事が彼らにとって本当の支援となるのか、スタッフ間のコミュニケーションと試行錯誤は、これからも日々続けられていくことでしょう。(Sr. 木口朋子)

## 青少年とともに

ダブルの中高生が岡田大司教にインタビュー

1月28日、「外国にルーツを持つ中高生による岡田武夫大司教訪問インタビュー」が行われました。これは、大司教に直接お会いし、青年達が新たな教区の課題について理解を深め、自分たちにできることを考えるために企画されたものです。

岡田大司教はインタビューの中で「日本人信徒と外国人信徒が対等な立場で助け合う関係を持ち、力を合わせて教会を創ってほしい。そのために、両方の文化を生きてきた皆さんの果たす役割は大きい。両方の文化を理解し両方の橋渡し役、架け橋となることができるからです。教会の大切な働きとして、『つなぐ』働きがありますが、まさにあなた方はそれが自然にできる恵みを受けています。皆さんにはその役割が期待されます」と話されました。

対談後の反省会で中高生達は、「大司教様と直接対話す

るという貴重な体験ができてうれしかった」「ダブルであることに自信を持ち、ダブルであることを生かして仲間をつくり活動していきたい」「私たちも架け橋となれるようにできることから始めたい」等の感想を述べていました。

昨年、CTIC運営委員の高木建次神父様を中心に外国人共同体の青少年担当者が集まり、CTICユースリーダーをサポートするサポートチームが結成されました。サポートチームでは、青少年の中に多文化共生マインドが育つよう、異なる言葉・異なる文化の方々とその違いを生かして「ともに祈り、ともに歩む」活動を展開していく計画です。(中村潔)



岡田大司教（中央）とともに

## 難民とともに

難民申請者が過去最多！法務省との協議が始まる！

2011年の難民認定申請は、1,867人で前年に比べ665人増加（約1.6倍に増加）し、難民認定制度が始まった1982年以降、最も多くなりました。しかし、難民として認定されたのはわずか21人（うち14人は異議申立手続における認定者）です。難民支援に携わっている者として、認定数が非常に少ないのは残念です。申請者の国籍は、57か国にわたり、ミャンマー491人、ネパール251人、トルコ（クルド）234人、スリランカ224人、パキスタン169人となっています。

CTICは、2004年から日本に逃れてきた難民を支援する団体・NGOのネットワーク組織「特定非営利活動法人なんみんフォーラムFRJ」を諸団体と立ち上げ、様々な活動を共同で行ってきました。

今年2月、FRJ、法務省入国管理局、日本弁護士連合会と「難民問題に関する三者協議会」を設け、「難民行政全般に関する改善点を探る協議」が始まることになりました。この意義を具体的な成果として結びつけるべく、官民協働によるよりよい難民保護の実現に寄与していきたいと思います。

(有川憲治)

在日カレン難民との交流会・浅草教会



## 小教区とともに歩んだ15年

清瀬教会フィリピン人共同体

2月19日、清瀬教会フィリピン人共同体が設立15周年記念を日本人信徒と共に祝いました。長年、日本の教会の中で、活動できたのは小教区のとつながりが大きいといえます。

設立当時、関わっていたほとんどの人は既にフィリピンに帰国しており、富沢テルマさん一人が残っているだけです。現在の共同体メンバーは創設時にいたメンバーではありませんが、その熱意と献身的な関わりは、目を見張るものがあります。それは15周年の祝いを成功させるために、彼らがどのようにしてそれぞれの役割を果たしているか観るだけでもわかります。

ミサ前に行われるロザリオの祈りの先唱、聖歌隊で歌うことや典礼奉仕、教会の掃除、軽食準備や祝賀会のプログラムなど、積極的に小教区の典礼、活動、行事に参加しています。今後の活躍が楽しみです。

(マリアソリダッド・ベレス)

清瀬教会・フィリピン人共同体



## 移住者とともに

### 新しい「在留管理制度」学習会

戦後60年以上続いた外国人登録法が廃止され、新しい「在留管理制度」が、2012年7月から実施されます。「戦後最大の改定」と言われ、関係者の間では何年も前から討議されてきたものです。しかし、当事者である外国籍の方々に聞くと、多くの方から「変わることは知っているけど、何がどうなるのかはほとんど知らない」と答えが返ってきます。留学生や職業によって在留資格を得ている方々は、その活動の関係者などからそれなりの情報をもたらしているようです。けれども、カトリック教会に来られている「永住者」「定住者」や日系人を含む「日本人の配偶者等」の在留資格を持つ方々には情報が不足しているようです。

そのため、CTICでは、1月から自由人権協会の旗手明氏の協力を得て、小教区での新しい「在留管理制度」出

張学習会を開始しています。日曜日の外国語ミサの後、2～3時間の講義と質疑応答を行います。毎回40～50人の方々が参加されて、熱心なやり取りがなされ、また個人的な相談も多数寄せられるようになっていきます。

今回の「改定」では、これまでゆるやかに扱われてきた事柄が、在留資格の取り消しになる事柄も含まれているため、個別ケースの相談も行っています。(大迫こずえ)

学習会の様子・カトリック習志野教会



## ■ 幸田和生新所長が就任いたしました！

2012年4月1日より、大原猛所長（任期：1994～2003、2008～2012、13年間）に代わり、幸田和生司教（東京教区補佐司教）が新所長に就任いたしました。よろしくお願いいたします。

## ■ フィリピン・ミンダナオ島 台風被害緊急支援にご協力ありがとうございました！

昨年12月、フィリピン南部を襲った台風の被害救済のため、皆様に緊急支援を呼びかけさせていただきました。多くの方々のご協力により、2012年2月までに、個人、共同体、修道会、団体から合計40件、4,716,346円の義援金が寄せられました。義援金は、被害が大きかったミンダナオ島のカガヤン・デ・オロ大司教区 Archdiocese of Cagayan De Oro に1,000,000円、イリガン教区 Diocese of ILIGAN に1,000,000円、ハビエル大学（イエズス会）XAVIER University に2,716,346円送金し、復興・支援のために活用していただくことになりました。



カガヤン・デ・オロの大司教様から「義援金は困難にある人、ホームレスになった人たちのために使わせていただきます。私たちと共に寄り添っていただき感謝致します」というメッセージをいただきました。多くの皆様にご協力いただき、心より感謝申し上げます。

運営委員長 岡田 武夫（東京大司教）

## ■ 新しい「在留管理制度」学習会の開催中！

今年7月、現在の外国人登録法に代わる、新しい「在留管理制度」が始まります。外国人を取り巻く環境が大きく変わろうとしています。CTICでは、外国人当事者向けの学習会を開催しています。

- 1月22日（日） カトリック習志野教会・ラテンアメリカ共同体（終了）
- 2月11日（日） カトリック目黒教会・フィリピン共同体G F G C（終了）
- 3月25日（日） カトリック小岩教会 14:30～（通訳：英語・タガログ語）
- 4月15日（日） カトリック成田教会 14:30～（通訳：英語・ポルトガル語、スペイン語、タガログ語）
- 4月29日（日） カトリック五井教会 13:30～（通訳：英語・タガログ語）
- 5月6日（日） カトリック西千葉教会 13:30～（通訳：英語・タガログ語）
- 5月27日（日） カトリック習志野教会 13:30～（通訳：英語・ポルトガル語、スペイン語、タガログ語）

### 京葉宣教協力体研修会 2012「外国人と共につくる教会～未来をみつめて～」

4月29日（日）14:30～ カトリック市川教会 講師：有川憲治（CTIC 副所長）  
 （内容）CTICの活動 / 新しい「在留管理制度」 / 難民 \*京葉宣教協力体：市川教会、葛西教会、小岩教会、潮見教会

## ■ カトリック東京国際センター CTIC とは？

日本に滞在する外国人をサポートするために、東京大司教区創立100周年記念事業として、1990年に設立されました。

### ■ 移住者、難民と共に

困難を抱える外国人を援助し、日本社会に適応し、お互いに成長できる関係作りをサポートします。

### ■ カトリック教会共同体と共に

日本カトリック教会が、外国人と共に生き、その役割や課題を分かち合い、同じ信仰を共有する共同体となるようサポートします。

### ■ 日本社会と共に

国籍・文化・宗教・社会的地位の如何に関らず基本的人権が尊重され、多文化共生による豊かな日本社会の実現のために社会に働きかけます。

### ● 外国人の自立サポート

生活相談 / 労働相談 / 難民支援

### 活動内容

### ● 収容されている外国人のサポート

東京入国管理局（東京都港区）  
東日本入国管理センター（茨城県牛久市）へ訪問

### ● 外国人の信仰サポート

信仰教育支援 / 教会・外国人共同体との連携  
信仰教育教材開発

### ● 外国人支援ネットワークへの参加、協力

日本カトリック難民移住移動者委員会  
移住労働者と連帯する全国ネットワーク  
特定非営利活動法人なんみんフォーラム FRJ 他